

主 題：アブラハムの信仰4－救いは恵みによる－

聖書箇所：ローマ人への手紙 4章13－17節

何度も同じ音楽を聞いていると、その聞いた曲が耳から離れないで気付いたらその歌を口ずさんでおり、それを忘れようと試みてもなかなか脳裏から離れない、このような経験は皆さんもきっとおありでしょう？パウロはこれまでに「救いは信仰のみによる」というメッセージを繰り返して来ました。このメッセージを彼は語り続けて来たのです。なぜなら、私たちがこのメッセージを忘れることがないように、このメッセージが私たちの脳裏から絶対に離れることがないようにと願っているからです。なぜ、パウロはそのようなことをしたのでしょうか？それはこのメッセージ、この真理が私たちのいのちに、私たちの永遠に関することだから、大切なことだからです。しかも、私たち一人ひとりの永遠に関することだから、私たちがこの大切なメッセージを誤解することなく正しく受け入れるように、そして、それを決して忘れることがないようにと語り続けたのです。そのことを私たちはローマ書4章の1節から見えています。

☆救いに関する三つの真理

1. 救いは信仰による 1－8節

そのことを私たちはローマ4：1－8に見て来しました。

2. 救いは恵みによる 9－17節

そして、9節からはこの救いというのは恵みである、恵みによって救われるということを見て来しました。前回見たように、パウロはこの救いの祝福はある特定の人たちだけのものなのか？この神のすばらしい祝福はある一部の人たちだけのためなのか？と、そのような問いかけをしています。当然、ユダヤ人たちは「その通りです。この祝福は私たちだけのものです！」と答えました。そこでパウロは、この祝福は信じるすべての民に、すべての人々に与えられるものであるということを教えるのです。そして、そのことを教えるために、祝福はすべての人々に及ぶこと、信じるすべての人々に与えられるのだということを教えるために、パウロはアブラハムを引き合いに出したのです。割礼によって救われるのか？彼はアブラハムのその人生を引き合いに出して、私たちに明確に教えてくれました。アブラハムは割礼によって救われたのではない、割礼は彼が救われたことの証拠であると。主の命令に従順であった、それこそ彼が救われていたことの証明だと言ったのです。アブラハムは割礼を受けることによって救われたのではなかったとパウロは繰り返していますが、私たちはこのことを忘れてはいけません。それは、救いはいかなる行ないによっても得ることはないということを教えているからです。どのような立派な行ないをしても、どんなに人々が賞賛するような行ないをしたとしても、その行ないが私たちを罪から救い出すことはないのです。

このように「行ないでは救われない」ということを教えたパウロは、今日見て行く13節からは、アブラハムの救いが律法を守り行なうことではないということを再び教えるのです。律法を守り行なうことによってアブラハムは救われたのではないと。ゆえに、私たちもある教えを守り行なうことによって救いを得ることができるといふと、決して、そのようなことはないパウロは教えようとするのです。なぜでしょう？今、私たちがこの箇所を読んで行くと「くどい」と感じます。というのは、何度も同じことを繰り返しているからです。でも、私たちが覚えなければいけないことは、この手紙を読んだ多くの人々の中にどうしても「救いは恵みによる」、「救いは信仰のみによる」というこの真理を受け入れることができない、それが難しい人たちがいたということです。だから、パウロはそのような人たちに繰り返してこの大切な真理を教え続けて行こうとするのです。

13節の最初に「**というのは**」ということばが記されています。この接続詞でこの節は始まります。よく見ると、日本語の訳には出て来ないのですが、13節も14節も、そして、15節もこのような接続詞で始まっているのです。というのは、この13－15節は理由を説明しているからです。なぜ、行ないによって救われないのか？なぜ、律法を守ることによって救われないのか、なぜ、割礼によって救われないのか、その理由をパウロはここで三つ教えようとしています。

◎救いは行ないによるのではない、その理由

1) 救いは信仰による 13節

2) 神の約束は真実である 14節

3) 信仰は神の怒りを取り除くものである 15節

パウロはこのように説明をして行きます。一つずつ見て行きましょう。

1) 救いは信仰による 13節

先ず、「救いは信仰による」とパウロは言いました。言い方を変えると「律法によっては救われない」ということです。どれ程その教えを守り従おうとしても、そのような行ないによって救われることはないと言うのです。13節「**というのは、世界の相続人となるという約束が、アブラハムに、あるいはまた、その子孫に与えられたのは、律法によってではなく、信仰の義によったからです。**」、「**世界の相続人となるという約束が、アブラハムに**」与えられたと言います。どのような約束がアブラハムに与えられたのでしょうか？創世記を見ると、神がアブラハムに対して与えられた様々な約束が記されていますが、大きく見ると三つの約束があります。

◎神がアブラハムに与えられた約束

(1) 土地

一つ目は土地に関する約束です。創世記13：14－15、17に主がアブラハムに一その当時はまだアブラムでしたが一仰せられたことが記されています。「**ロトがアブラムと別れて後、主はアブラムに仰せられた。「さあ、目を上げて、あなたがいる所から北と南、東と西を見渡しなさい。：15 わたしは、あなたが見渡しているこの地全部を、永久にあなたとあなたの子孫とに与えよう。……：17 立って、その地を縦と横に歩き回りなさい。わたしがあなたに、その地を与えるのだから。**」、また、15：18－21にも「**その日、主はアブラムと契約を結んで仰せられた。「わたしはあなたの子孫に、この地を与える。エジプトの川から、あの大川、ユーフラテス川まで。：19 ケニ人、ケナズ人、カデモニ人、：20 ヘテ人、ペリジ人、レファイム人、：21 エモリ人、カナン人、ギルガシ人、エブス人を。**」とあります。確かに、神はアブラハムに対してこのような土地を約束されました。

(2) 子孫

二つ目は同じ創世記13章に子孫に関する約束があります。13：16「**わたしは、あなたの子孫を地のちりのようにならせる。もし人が地のちりを数えることができれば、あなたの子孫をも数えることができよう。**」、15：5にも「**そして、彼を外に連れ出して仰せられた。「さあ、天を見上げなさい。星を数えることができるなら、それを数えなさい。**」さらに仰せられた。「**あなたの子孫はこのようになる。**」とあり、アブラハムの子孫がおびただしい数になる、増え広がるということです。私たちも確かにその事実を見て来ました。出エジプト記の中にこのイスラエルの民がどれ程増え広がって行ったのか、その様子を見ることができます。

(3) 救世主

三つ目の約束は救世主、救い主に関するものです。創世記22：18「**あなたの子孫によって、地のすべての国々は祝福を受けるようになる。あなたがわたしの声に聞き従ったからである。**」、ここには「**あなたの子孫によって**」とあります。「子孫たち」と言わずに「子孫」と一人の人物のことを言っています。このことをパウロはガラテヤ人への手紙の中で説明しています。ガラテヤ3：16「**ところで、約束は、アブラハムとそのひとりの子孫に告げられました。神は「子孫たちに」と言って、多数をさすことはせず、ひとりをして、「あなたの子孫に」と言っておられます。その方はキリストです。**」。ですから、創世記22：18に「**あなたの子孫によって、地のすべての国々は祝福を受ける**」と記されているこの「**あなたの子孫**」がいったいだれのことかということ、新約聖書が明らかにしていて、それはキリスト、メシヤ、救世主であると言います。ですから、神の預言、神がアブラハムに与えたその約束の中に、アブラハムの子孫からこの救い主が生まれ、彼を通してすべての国々、これは全世界のすべての人々と言っているのではなく、これはすべて信じる人々のことですが、その人たちが祝されると言うのです。この神が備えてくださった救世主を信じる者たちに、神はこのすばらしい祝福を与えるとされたのです。

覚えておられますか？イエスが言われたことですが、その当時の人々にはいったいイエスが何を言っているのか理解できなかったことがヨハネの福音書の中に記されています。ヨハネ8：56「**あなたがたの父アブラハムは、わたしの日を見ることを思って大いに喜びました。彼はそれを見て、喜んだのです。**」、イエスはここで弟子たちと話をされているのですが、その中でこのように「**アブラハムは、わたしの日を見ることを思って大いに喜びました。**」、アブラハムはその日を待っていると言ったのです。すると、ユダヤ人たちはこのように言うのです。57－59節「**そこで、ユダヤ人たちはイエスに向かって言った。「あなたはまだ五十歳になっていないのにアブラハムを見たのですか。：58 イエスは彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。アブラハムが生まれる前から、わたしはいるのです。：59 すると彼らは石を取ってイエスに投げつけようとした。しかし、イエスは身を隠して、宮から出て行かれた。」と。なぜでしょう？それはユダヤ人たちはイエスが自分のことをだれであるのかということを理解したからです。イエスはご自分が神であることを明らかに宣言され、それを聞いていたユダヤ人たちはそのことを悟ったのでイエスを殺そうとしたのです。つまり、イエスが言いたかったことは、アブラハムが待望していたこと、アブラハムに与えられた救世主が生まれるという約束、それはまさにこのわたしなのだということです。それでユ**

ダヤ人たちは彼を殺そうとしたのです。確かに、神はアブラハムにこのような約束を与えられました。土地に関する約束があり、子孫が増えるという約束があり、そして、このアブラハムの子孫から救世主が生まれて来るという約束です。

ですから、ローマ4：13にある「**世界の相続人となるという約束が…**」というのは、今見て来たように、このすばらしい救いを受け入れた人々のことです。神の祝福をいただいた人たちのことです。「**相続人**」ということは私たちにも分かります。それは財産や遺産を受け継ぐこと、相続をするのです。「世界を受け継ぐ」、こんなすばらしい祝福、それをいただくのはこの神と和解し神の救いをいただいた者たちです。

同じガラテヤ人への手紙の中で、今話していることをパウロはこのよう説明しています。ガラテヤ3：8-9「**聖書は、神が異邦人をその信仰によって義と認めてくださることを、前から知っていたので、アブラハムに対し、「あなたによってすべての国民が祝福される。」と前もって福音を告げたのです。：9 そういうわけで、信仰による人々が、信仰の人アブラハムとともに、祝福を受けるのです。**」、この箇所を見て気付かれたことがありますか？8節に「**神が異邦人をその信仰によって義と認めてくださることを、前から知っていた**」とあるのはだれでしょう？「**聖書は、**」と言っています。聖書が知っていたと言うのです。続いて「**…知っていたので、アブラハムに対し、『あなたによってすべての国民が祝福される。』と前もって福音を告げたのです。**」とあたかも聖書が話したかのように記されています。何を意味しているのでしょうか？「**聖書が語る**」ということと「**神が語る**」ということと同じように扱っているのです。なぜなら、神のおことばだからです。しかし、このみことばが私たちに教えていることは、異邦人であろうとユダヤ人であろうと、信仰によって義とされたアブラハムと同様に、信じるすべての人は義とされた、罪が赦されたということです。信じるすべての人はこの神のすばらしい祝福、「**世界の相続人**」というすばらしい救いの祝福を主からいただくのです。ガラテヤ3：29にも「**もしあなたがたがキリストのものであれば、それによってアブラハムの子孫であり、約束による相続人なのです。**」と同じことが記されています。ここでは「**もし**」と条件つきです。

「**あなたがたがキリストのものであれば**」、もしあなたがたが救われているなら、あなたがたは「**アブラハムの子孫であり**」、そして、「**約束による相続人**」となったと言うのです。主イエス・キリストを信じる一人ひとり、国籍にも人種にも関係なく神からこのようなすばらしい祝福をいただきます。

ローマ書4：13をもう一度見てください。このすばらしい祝福、約束、これはどのようにして得ることが出来るのでしょうか？パウロは教えています。「**律法によってではなく、信仰の義によったからです。**」と。この「**世界の相続人**」となるのは「**律法によってではなく、信仰の義によった**」と言うのです。ここでパウロが言っていることは、信仰の義を通してこの祝福が与えられるということです。だれであってもこのことを疑うことは出来ません。パウロ自身が明確に教えていることは「**信仰の義によって祝福が与えられるのであって行ないでは決してない**」ということです。神が私たち信じる者に与えてくださった大きな祝福、クリスチャンの皆さん、このことを私たちは忘れてはならないし、また、この神が与えてくれた祝福をしっかり理解することが必要です。この祝福がどんなにすばらしいものなのかということ。ご存じですか？神が与えてくださった祝福のすばらしさを。

◎神が与えてくださる祝福とは？

(1) 永遠の救い

私たちが神の祝福を考えるときに、最初に出て来るのは当然、救いです。私たちが自分の努力をもってしてもどうしても得ることの出来なかった罪の赦しを、神は与えてくださったのです。イエス・キリストを信じる一人ひとりに、神はこのすばらしい救いを与えてくださったのです。これ以上の祝福はないはず。なぜなら、他のどのようなものを得たとしても、この永遠のいのちを得ていなければ、その人に待っているのは永遠の滅びです。永遠のさばきでしかありません。でも、この神の恵みによって救われた私たち一人ひとりに与えられた罪の赦し、永遠の救い、それを私たちはしっかり覚えて感謝することが必要です。

(2) 地上にある祝福

でも神がくださった祝福はそれだけではありません。数々の祝福をいただいている私たちは確かに、神の祝福の相続人と言えます。たとえば、皆さん、この地上を私たち信仰者は歩み続けて行くのですが、今日という新しい日が神の恵みによって私たちに与えられました。いつまでこの地上に置いてくださるのか分かりませんが、私たちはこの地上の旅路を続けて行く過程で、神から大きな祝福をいただいているのです。イエスを知らないで罪の中を歩み永遠の滅びに向かっている人たちが、見たことも聞いたこともない、経験したこともないその祝福をいただきながら私たちは今を生きているのです。

(a) **物質的祝福**＝この地上にあって、神は私たちをすばらしい物質的祝福で満たし続けてくださっています。それは私たちすべてがクリスチャンになれば豊かになるということを行っているではありません。物を持っていなくても私たちは喜んでいて、物がなくても私たちは満ち足りています。なぜでしょう？私たちクリスチャンに与えられた大きな祝福は、私たちの神が私たちの必要を必ず満たし続け

てくれるという約束です。たとえば、私たちが銀行の口座に十分お金があれば、人間的にはある種の安心を得ます。私たちは私たちの人生のすべてをこの神に委ねています。そして、神は言われました、「必要なときに必要を与える。」と。ピリピ4：19には「**また、私の神は、キリスト・イエスにあるご自身の栄光の富をもって、あなたがたの必要をすべて満たして下さいます。**」とあります。こんなにすばらしい約束が与えられたのです。神があなたの必要を一部ではなくすべて満たして下さるのです。この約束を聞くだけで私たちはもう十分励まされます。なぜなら、心配しなくてもいいと言われているのですから。このみことばを見ると、神が言われたことはそれだけではありません。「**栄光の富をもって**」と書かれています。この「**もって**」ということば、この前置詞は「～と一致して、～の程度に応じて」という意味です。たとえば、長者番付のトップの人が自分の収入に「**応じて、また、一致して**」寄付をするならどれ程の金額でしょう？百や千の単位ではありません。「**収入に応じて**」とか「**収入に一致して**」と言った場合、それに見合う金額のことです。恐らく、一般の人とはその桁が三つも四つも異なるでしょう。パウロが言っていることはお分かりになるでしょう？その人の収入に、その人が持っているものに一致して、それに**応じて**ということばです。つまり、ここでパウロが言っていることは、神はご自身の栄光という富と一致した、その栄光の富に応じて、私たちの必要を満たしてくれる、惜しみなく喜んで私たちの必要を満たして下さるということばです。私たちが考えるような出し惜しみをするようなお方ではないのです。ご自身の栄光の富をもって、それに相応しく、それに**応じて**、それと一致してあなたのすべての必要を満たすと言うのです。それを考えるとただ感謝です。

マタイの福音書6：32－33には「**こういうものはみな、異邦人が切に求めているものなのです。しかし、あなたがたの天の父は、それがみなあなたがたに必要であることを知っておられます。：33 だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。**」とあります。皆さん、このみことばが教えるすごいことは、食べ物にしても着るものにしても、私たちの様々な必要に関して、神はそれらを全部知っているということばです。「**それがみなあなたがたに必要であることを知っておられます。**」と、何があなたに必要なのか神は知っていると言うのです。あなたが今日生きて行くために、そして、これからの生活のために何が**必要な**のかを神はすべてご存じだと言うのです。しかも、知っているだけではありません。それを**与える**と言うのです。今見て来たように、ご自身の栄光の富に相応しく、それに**一致して**、あなたに必要なもの、最高のものを必要なときに**下さる**のです。世の中は今将来のことで不安を覚えています。確かに、この国もそのような中で人々は不安を抱えています。でも、私たちはそのようなことをすべてご存じであり、そして、私たちのすべての必要をご自身の栄光の富をもって必ず満たし続けて下さる神に、すべて委ねることが出来るのです。無責任な生き方のことを言っているではありません。正しい生き方を話しているのです。かつての私たちは自分の思い通りに自分の力で幸せをもたらそうとしましたが、それは無理でした。それをもたらして下さる唯一のお方を私たちは知ったのです。私たちはその方にすべてのことを委ねて今を生きることが出来るのです。Iコリント3：21b－23でパウロはこのように言っています。「**すべては、あなたがたのものです。：22 パウロであれ、アポロであれ、ケパであれ、また世界であれ、いのちであれ、死であれ、また現在のものであれ、未来のものであれ、すべてあなたがたのものです。：23 そして、あなたがたはキリストのものであり、キリストは神のものです。**」と、パウロはまさにこのことを今私たちが見ているローマ書で教えようとしたのです。

皆さん、救われた私たちに与えられた神の祝福というのは、私たちがもう神のものだということばです。神が愛してく下さる者であり、神が私たちのすべてをご存じですべての必要を満たして下さるのです。このような約束の中に私たちは招き入れられたのです。少なくとも、これを覚えるだけでも私たちは今感謝して生きることが出来ます。私たちの心のどこかでは私たちに不安を呼びかける声があります。私たちが不安を抱いて、不安な顔をして、神を知らない人たちと同じように生きることを私たちに勧めます。でも、私たちはこのようにみことばを見ると、そのような誘惑に対して「**とんでもない、私は神さまからこんな祝福を与えられている。私のこの地上における物質的なすべての必要はこの方が満たして下さる。**」と言います。だから、クリスチャンはいつも希望をもって生きることが出来るのです。希望をもって生きなければいけないではありません。神のことを覚えるときに、そこに自然に希望が湧いて来るのです。どのようなことを神はなさるのかという希望です。

(b) **霊的祝福**＝また、神は霊的な面においても祝福をくださっています。恐らく、ローマ書4章でパウロが教えたかったのはこの霊的な部分だったと思います。私たちは神からすばらしい霊的な祝福をいただいているのです。覚えていますか？エペソ1：3に「**私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神はキリストにおいて、天にあるすべての霊的祝福をもって私たちを祝福してくださいました。**」とあります。神は私たちイエス・キリストを信じる者たちにもうすべての霊的祝福を与えてくれたというのです。しかし、多くのクリスチャンがそのことを忘れてしまっています。どんなに大きな祝福をいただいているのか、この霊的祝福は神から与えられるものです。この世によって、また、この世の

ものでは得ることは出来ないのです。しかも、このみことばが教えるように「**天にあるすべての霊的祝福をもって**」、すなわち、神しか与えることが出来ないすべての祝福は、イエス・キリストを信じる一人ひとりに与えられているのです。しかも「**霊的祝福をもって私たちが祝福してくださいました。**」とあります。もう完了したのです。神はそのような祝福を与えてくださり、しかも、その祝福がずっと継続しているのです。クリスチャンの皆さん、私たちに神はとんでもなく大きな祝福を与えてくれているのです。その祝福を私たちが知らないで歩むなら悲しいことです。

私たちはよく「愛」についてこのように言います。「自分は本当に神に愛されているのかな？」とか「神さま、もっと私を愛してください」と。聖書が教えることはもうあなたは十分に愛されているということです。神の愛に欠けたところはありません。もし、あなたが神の愛を疑うのなら、イエス・キリストの十字架を見上げなくてははいけません。神はあのようにいのちを捨ててまでも私たちに一番大切な救いを与えようとしてくださったのです。神は私たちが愛して下さっているのです。

私たちがこの大変な時代にあって平安をもって生きて行くことが出来るように、イエスは何と言われましたか？ヨハネの福音書14：27「**わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。**」。クリスチャンである私たちはイエスがもっておられた平安をもって歩むことが出来る者へと変えられているのです。ですから、時代がどう変わろうと、世の中がどのように変わって行こうと、私たちのからだはどれ程衰えて行こうと、どのようなことがあっても、私たちはイエスがもっておられたあの平安をもって生きて行くことが出来る者にもう変えられたのです。

喜びに関してはどうでしょう？この世の中にあって悲しいこと辛いことがたくさんあります。そのような中にあっても私たちは神の本当の喜びをいただきながら、その喜びに満たされながら、生きることが出来るのです。同じヨハネの福音書15：11に「**わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにあり、あなたがたの喜びが満たされるためです。**」とあります。イエス・キリストを信じる私たちの心が、この神の喜びで満たされるように神はその喜びを与えて下さっているのです。皆さん、喜べないときに喜ばないのはだれでもすることです。でも、神がくださる喜びというのは、私たちが喜べないとき、悲しみや痛みが襲ってくる時、その中でも与えてくださる喜びなのです。そのような祝福をもう私たちイエスを信じる者たちに神は与えて下さっているのです。

また、私たちの大きな敵でもある「私にはできない」、「私には力がない」という不信仰、そのような私たちに対して神が言われることは「**神の力が与えられている**」ということです。ピリピ人への手紙4：13でパウロは言いました。「**私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。**」と。イエス・キリストを信じる前の私たちの力の源は自分でした。自分ですべてのことをすると。残念なことに、私たちは不完全です。でも、イエスを信じた私たちは神が備えてくださる力によってことを為すのです。だから、生まれ変わった私たちは、それまで「**私はできません。私には自信がありません。私は役に立ちません。私なんて生きていても意味がありません。**」とそのような悲観的で消極的な者でしたが、イエスを信じることによって「**確かに、そのような者でも私は神によって用いていただける。私は弱者です。愚かな者です。教育もありません。経験もありません。でも、神が私を使ってくれから。**」と、これが信仰者なのです。

私たちクリスチャンは自分たちの栄光のために生きる者ではありません。私たち信仰者は神の栄光のために生きるのです。どのようにして生きますか？私たちを通してこの神のすばらしさが世に明らかにされて行くように生きるのです。私たちが出来ないことを覚えるとき、出来ないことに直面したときに、「**できません**」と言うなら神の力は働かないのです。確かに、無理だ、不可能だと思えることでも「**神さま、あなたの助けによって最善を尽くすことができるように、そして、願わくは、この機会を通してあなたのすばらしさが人々に明らかにされるように。**」と願うなら、神は働かれます。大きな違いがあります。人間的に判断して無理だと思うことに「**無理だ**」と最初から白旗をあげる人、そのような不信仰な者になるのではありません。私たちはどのような状況にあっても、神がここに置いてくださったと信じているなら、その状況を通して神の栄光が現わされることも信じる事が出来るはずで。そうであるなら、私たち信仰者は「**神さま、大変です。問題が大きすぎます。私にはどうすることも出来ないと思われま**す。でも、あなたが置いてくださった、だから、あなたがこの機会を用いてあなたのすばらしさを現わしてください。」と言うはずで。信仰者はそのようにして生きるのです。そうして、神の栄光を現わして行こうとするのです。そして、感謝なことに「**私は、私を強くしてくださる方**」、私ではない、私に力をくださる方、私を勇気づけてくださる方、この方によって「**どんなことでもできるのです。**」、このように生きる者が信仰者なのです。

ですから、これだけ考えただけでも私たちは神から霊的祝福をいただいた者であることが分かります。神の愛をいただき、神の平安をいただき、神の喜びをいただき、そして、神の力をもって今日生きるこ

とが出来るのです。でも、そのように生きることを望んでいないものがあります。サタンはあなたがそのように生きることを望みません。なぜなら、そのように生きるなら間違いなく神の栄光が現わされるからです。だから、サタンはクリスチャンである皆さんを誘惑します。あなたがそのように生きて行かないようにと誘惑するのです。「あのようには牧師が語っていたけど無理だ。そんなことできるわけがない。」と、そのように不信仰に歩いて行くようにと働きかけるのです。その原因となっているのは、ご存じのように私たちのうちにある罪です。私たちが神の栄光を現わせないように、現わさないように働きかけるのです。でも、皆さん、私たちがそのようなことばに負けてしまって、神が言われていることをしなければ、私たちのうちにこのようなにすばらしい祝福が与えられているということを、いつまで経っても分からないままに、この地上で生き、この人生を過ごしてしまいます。

このようなすばらしい祝福が与えられたとパウロは言いました。なぜなら、パウロはそのように確信して生きたからです。だから、彼は確信をもって実践をもって経験したことを明らかにしたのです。「確かに神は私に平安をくれた、確かに神は私に喜びをくださった。確かに神は私を力づけてくださる」と。でも、もし、あなたがそのようなことを受け入れないなら、あなたはこの祝福を経験することはありません。そして、もっと致命的なことは、あなたは神の栄光を現わすことがないのです。悲しいことだと思いますか？ 私たちに必要なことは「神さま、どうぞ私を使ってください。あなたが約束してくださったように、私はその約束を心から受け入れてそのように生きて行きたいから私を変えて行ってください。疑う者からあなたを信頼する者になります。」と心から言うことです。そのような疑いの誘惑、罪が私たちの心を支配しようとするとき、間違った考え方が私たちの心の中に入ってそれらが私たちのうちから希望を奪って行こうとするときに、私たちがしなければいけないことは、その罪を神の前に告白することです。そして、「神さま、あなたが約束してくださったこのすばらしい霊的祝福を味わいながら歩いて行くことが出来るように私を助けてください。」と言うのです。この地上においてもこのようにして私たち信仰者は生きて行くことが出来ます。それだけではありません。

(3) 永遠の祝福

神が与えてくださった祝福は、また永遠の祝福です。クリスチャンはイエス・キリストの再臨を待望しながら今日生きる者たちです。テトスへの手紙の中でパウロが言うように「**祝福された望み、すなわち、大いなる神であり私たちの救い主であるキリスト・イエスの栄光ある現われを待ち望むようにと教えさせたからです。**」(2:13)、私たちクリスチャンは今日イエスが帰って来るかもしれないという希望をもって生きている者たちです。あなたはそのように生きていますか？ これは祝福された望みです。このすばらしい祝福された望みを私たちクリスチャンは待ち望むのです。今日イエスにお会いするかもしれないと。信仰の先輩たちもそのようにして生きて来たのです。今日がこの地上における最後かもしれない、イエスにお会いするかもしれない、だから、今日私は主にお会いする備えをして生きようとしています。もし、神が明日を与えてくれたら明日もそのようにして生きて行こうとするのです。そして、イエスにお会いした後私たちはどうなるのでしょうか？ ご存じのようにIテサロニケ4:17に記されている通り「**次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることになります。**」と、私たちはこのすばらしい主と永遠を過ごすのです。このような約束を神はくださったのです。私たちクリスチャンはこの地上を、また、永遠の旅路を主とともに、その祝福のうちに過ごすことが出来る者たちなのです。

そして、これがアブラハムとその子孫、信仰の子孫、彼と同じように信仰によって救いを得た人たちに与えられた約束だったのです。クリスチャンの皆さん、すばらしいと思いませんか？ 神が私たち信仰者にくださった祝福は何とすばらしいことでしょうか。私たちはこの全能なる神の御手の中にしっかりと守られて今日を生きることが出来るのです。しかも、私たちは天というその永遠を約束された者として、その時を楽しみに今日生きることが出来るのです。先ほども話したように、毎日の生活でいろいろなことが起こります。どうして？と思うことが余りにも多すぎます。「どうしてですか？ 神さま！」と言ってしまうことが起こります。そのようなことが私たちの周りにはあふれています。でも、私たち信仰者は、このようなすばらしい祝福を与えてくださった神を見、そして、常に正しいことしかできない神を見るときに、「神さま、私には分からないけれど、しかし、あなたが為されていることは常に完全です。だから、どうぞ、あなたがどんなにすばらしい神であるかを証するために、人々に明らかにするために、どうぞこの機会を用いてください。」と言うのです。

自分の息子が癌で大変なときにその母親が私に教えてくれたことは「これも神さまがなさったことです。だから、神さまの最善がなされることを信じます。」でした。正直言って、なかなか言えないことだと思います。でも、神を知っているからこそ言えることです。神がどのようなお方であるかということを知っているから言えることだと思いますか？ あなたは思っているかもしれませんが、「私にはどういふそのようには言えません。」と。でも、少なくとも、あなたも私もみな、どれ程すごい神であるかを知っ

ています。この方にすべてを委ねて信頼することができるのです。そのようにして生きることです。神はあなたにすばらしい祝福をくださったからです。祝福をいただいた者として今日を生きることです。祝福をくださった神のすばらしさが、どうにかしてこんな罪深い愚かな私たちを通して現わされることを願いながら今日生きることです。このすばらしい主の栄光のために。